

# W. N. J. ニュースレター No.37

発行 ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン Workers' Collective Network Japan 2011 07 29  
東京都世田谷区赤堤 4-1-6 赤堤館 代表宮野洋子 Tel 03-3325-3720 Fax 03-3325-7955  
http://www.wnj.gr.jp Email:wnj\_office@wnj.gr.jp

## WNJ 第 15 回総会開催

### 「東日本大震災及び東京電力の福島原子力発電所事故に際して」声明採択

7月5日にWNJ第15回総会が埼玉、東京、千葉、神奈川、ACT、北海道の1号会員6団体の出席のもと、近畿と熊本の委任状を加え開催された。法制化推進、法制化後の政策や事業の活性化と継続性の必要性等議案はすべて賛成多数で可決された。また東日本大震災と福島原発事故に関して声明「東日本大震災及び東京電力の福島原子力発電所事故に際して」(2面に掲載)を採択した。来賓として参加型システム研究所の丸山茂樹さん、日本労働者協同組合連合会の田嶋康利さん、共生型経済推進フォーラムの柏井宏之さん、賛助会員の生活クラブ生協埼玉理事長の清水泉さん、東京の理事長吉田由美子さん、生活クラブ共済事業連合の伊藤由理子さん、希望製作所の桔川純子さん、生活クラブスピリッツ(株)の白井和宏さん、市民セクター政策機構の米倉克良さん、神奈川ネットワーク運動の若林智子さん、NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会一色節子さんから激励のメッセージをいただいた。

同日に開催された第1回運営委員会で、宮野洋子が引き続き代表として選出された。

### 2011年度活動方針

1. ワーカーズ・コレクティブ法制化を実現すると共にその後の対策についても検討する。
  - ・民主党ワーキングチームに働きかけ、議員連盟による法制化を推進します。
  - ・「『協同労働の協同組合』法制化をめざす市民会議」へ参加します。
  - ・ワーカーズ協同組合法の法制化チームで詳細を検討します。
2. ワーカーズ・コレクティブ経営研究会の開催
3. ワーカーズ・コレクティブを増やす活動
4. 事業の活性化と継続に向けて活動する。
5. ワーカーズ・コレクティブの独自の労働補償の仕組みづくりについて検討します。
6. 第10回全国会議を成功させます。
7. 他の非営利組織・社会的企業と連携し社会的課題に取り組みます。
8. 広報活動、活動の基盤づくりを行います。

## 第10回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 千葉 内容決定!

地域再生へ向けて ネットワークでつくる「新しい公共」

ワーカーズ・コレクティブが結ぶ地域の縁! 円! 援!

11月19日(土) 10時~17時 シンポジウム 於千葉市市民会館

- 第1部「ワーカーズだからできる生活まるごとたすけあい」
- 第2部「環境・リサイクルでつながるまちづくり」
- 第3部「ネットワーク機能の充実が安心を支える」(懇親会)

11月20日(日) 10時~13時 分科会 於千葉大学

「ひろば運営の課題と今後の展望」「働くを学生と考える」「国際協同年に向けて」「学校教育から始める福祉の現場のひとづくり」「ユニバーサル就労」「共につくり、食べ続ける」「暮らし方とエネルギーの地産地消」

## 東日本大震災及び東京電力の福島原子力発電所事故に際して

2011年3月11日以降、東日本において断続的に発生した大地震と大津波による自然災害では、町が根こそぎ破壊され、多くの方の命、そして生活基盤が失われました。さらに人災として、かねてより懸念していた原子力発電所の事故が引き起こされ、移住を余儀なくされた方、不安をかかえながら暮らしている多くの方が被災されています。亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被害にあわれた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

ワーカーズ・コレクティブは協同組合の精神に基づき、一人ひとりの人権を尊重し合い、地域での生活を少しでも暮らしやすく楽しいものになりたいという思いで事業を展開しています。人とのつながり、食の安全、やりがいや生きがいに価値をおきながら、モノやサービスを提供する側も受ける側も充足感が得られることをめざしてきました。しかし、大津波に襲われた地域は、積み上げてきたコミュニティ・まちそのものが一瞬にして姿をなくし、原子力発電所の事故による放射能汚染は、家屋が無事でも住むことができなくなり、農業・漁業・林業が長期にわたり成り立たない状況となっています。まさに外務省が評したように「戦後最大の国家的危機」であり、未だ原子力発電所の事故処理が終了していない以上、人類史上最悪の環境汚染となる可能性もはらんでいます。

この危機に際し、日本に昔からある「お互いさま」や「結」の心意気で、さまざまな支援が行なわれています。そして、力を持ち寄って新たな生活の場、仕事の場を創出する努力が始まっています。これらはまさに協同組合の原点ともいえる事です。私たちはワーカーズ・コレクティブとして、被災地の自然災害からの復活に向けて、そして人災である放射能汚染を2度と起こさないために下記を提言いたします。

### 1. 津波や地震による被害からの復興計画は地域主体ですすめる事が重要です

国が上から押し付け、大手の業者によるものではなく、地域に住む人の意向を反映し、営々と継続し築いてきた歴史や文化やコミュニティを尊重して計画作りをすすめることを要望します。

### 2. 働く場をつくる方法として、出資し、運営も担って働くというワーカーズ協同組合(ワーカーズ・コレクティブ)の手法が有効です。「ワーカーズ協同組合法」と「社会的事業所支援法」の制定を求めます

私たちは約30年にわたり、地域課題に応える事業を興し働く場をつくってきました。誰かや何かに従属しない働き方は、互いを尊重しやりがいのある働き方です。一人ひとりが活かされ働くことは将来へ希望をつなぐことであり早急に対策を進めなければなりません。この働き方を社会的に位置付け、法人格を付与する「ワーカーズ協同組合法」とともに、被災者をはじめとする社会的に困難をかかえる人たちが関わる事業に対して公的に人・モノ・資金を提供して支援する「社会的事業所支援法」の制定が必要です。

また、事業を立ち上げる相談窓口を設けるなどWNJとしても、現地に行き支援することを検討します。

### 3. 食品の汚染状況の測定を徹底し公表することを求めます。

国が決めた放射能の基準値で出荷制限をされた農産物、それを食べなければ安全安心なのでしょうか？微量な放射能であっても人体に与える影響はまだ長年の研究課題です。汚染状況を今後も測定し、迅速に公表することを求めます。

私たちは、生産者と顔が見える関係を築き、何処で、誰がどんな風に作ったものが、情報公開がされることで、安心を得てきました。たべものの安全は、その生産現場の安全によって作り出されます。この機におよび、安易に輸入に頼ることは、東日本のみならず日本の農業の衰退を加速させます。継続した生産を保障する政策作りとそれを食べ続ける消費者との関係作りが今こそ必要です。

### 4. 原子力発電をやめて、再生可能な自然エネルギーを使った発電システムに変えていきましょう。

「核の平和利用」の名のもと、原子力発電所の恐ろしい仕組みについては考慮されず、公表もされずに建設が推進されてきました。そして作家の村上春樹さんが2011年6月9日(現地時間)にスペインのカタルーニャ国際賞授賞式でスピーチしたように、「黙認してきた国民にも責任があり、加害者である」と深く反省します。使用中の原子力発電所が危険なのは言うまでもありませんが、使用済み核燃料棒は冷却に数年かかり、再処理した後に頑強な容器に封じ込めて何千年も保管しなければなりません。そういう危険なものが、原発の稼働する限り増え続けます。

また、事故が起こらなくても日常的に原発での労働には被ばくが伴います。従事している労働者に対する処遇は差別的であるのが現状です。

私たちは、大きな犠牲のもとにこの事実を知りました。知った以上、このような危険をはらんだ仕組みでエネルギーを享受し続けたいとは思いません。原子力・核は一切使わずに、風力・太陽光・地熱・水力・波力・バイオマスなど再生可能な自然エネルギーを合わせた発電システムに、国や地域が取り組むことを提案します。

2011年7月5日